

令和5年度宮城高等歯科衛生士学院学校関係者評価概要報告

I 学校運営方針

宮城高等歯科衛生士学院の教育理念である、高度な専門能力・自ら課題を創造する・思いやりと社会性を持ったヘルスプロモーションの担い手として医療機関・施設・行政において、必要とされる各業務に適応できる人材を育成する。今後さらに充実させ、新たな改革と発展を目指し、教職員の意識改革・自己研鑽に努める。加えて、高度な視点から多様化した歯科保健医療を捉えた質の高い歯科衛生士として国民の新たなニーズに応じてまいります。

II 重点目標

- (1) 基本的な医学知識を備えた行動
- (2) 生涯研修と自己啓発の意識
- (3) 歯科衛生ケアプロセスの実践
- (4) 対人サービスと社会性、コミュニケーション
- (5) 研究活動の奨励、海外研修制度

III 学校関係者評価委員会の概要

<第1回>

- | | |
|---------|-------------------------|
| (1) 日 時 | 令和5年7月26日(水) 午後6時～7時 |
| (2) 場 所 | 宮城県歯科医師会館 4階 会議室 |
| (3) 出席者 | 学校関係者評価委員<順不同> . . . 5名 |
| | 江 草 宏 (連携校・実習協力校代表) |
| | 伊 藤 美香子 (臨地・臨床実習協力施設代表) |
| | 人 見 早 苗 (業界代表) |
| | 菅 原 甚 一 (地域住民代表) 欠席 |
| | 堀 込 ゆかり (卒業生代表) |

本学院

- | | |
|---------|--------------|
| 吉 田 直 人 | (学院長) |
| 上 原 忍 | (副学院長) |
| 枝 松 淳 二 | (本会理事者・副学院長) |
| 荘 司 伸 樹 | (教務部長) |

角 田 哲 (副教務部長)
三 浦 啓 伸 (副教務部長) 欠席
佐 藤 陽 子 (教務主任)
阿 部 寿 郎 (事務長)

(4) 内 容

- ① 委嘱状交付
- ② 委員長選出 江 草 宏 委員
- ③ 報告
 - ア 令和4年度「学校評価」事業の経過について
 - イ 令和5年度の主な学校行事について
 - ウ 学院の概要について
- ④ 協議
 - ア 令和4年度の自己点検評価に関する集計結果について
 - イ 令和5年度「学校評価」事業日程(案)について

(5) 主な質疑応答

- 委 員：令和5年度志願者の減は、どう分析しているのか。
- 学 院：ファクターがありすぎて分析しきれっていないが、母集団そのものの減とコロナ禍での高校生の就職、進学への意識低下、変化があると思う。対策として高等学校訪問の強化とオープンカレッジへの誘導策を強化している。
- 委 員：歯科衛生士国家試験の合格率が下がったことについての分析はしているか。
- 学 院：受験数が少ないため数名の不合格者でも合格率が著しく下がることになる。今年度の国家試験受験者に関しては、受験前から合格が厳しい学生がいたことも事実である。
- 委 員：国家試験の出題内容が変化してきているように思う。国家試験の内容が変化してきていることに対応して授業内容の見直しをすることも必要なのではないか。
- 委 員：新卒者で就職していない学生はいるのか。
- 学 院：今年は卒業予定者に国家試験合格が厳しいと思われる学生が複数名おり、それらの学生は国家試験結果が出た後に就職活動をしている。これらの学生は4月に入ってから就職した学生もおり、結果全員就職している。
- 学 院：歯科衛生士国家試験の対策等についてご意見をいただきたい。
- 委 員：国家試験の内容が変化してきていることに対応して、大学教員等の学外講師に国家試験の出題基準を理解いただき内容に沿った授業内容

となるよう見直しをさせることも必要なのではないか。

学 院：現在全国で数校が歯科衛生士と歯科技工士のダブルライセンスを3年間で取得できるコースを設置している。本学院ではこのコース導入の可能性も含め調査中であるが、このことについてご意見をいただきたい。

委 員：歯科技工士がさらに歯科衛生士の資格を取ることは魅力があると思うが、歯科衛生士と歯科技工士のダブルライセンスコースは需要がないのではないか。歯科衛生士の課程をより一層充実させることの方が良いのではないかと思う。

委 員：昨年この会議で学生からの評価を取り入れてはとの意見があったと思うがその後の検討はどうか。

学 院：学生による評価については、評価項目等の検討も必要でもあり、引き続き検討中である。

委 員：教員の研修会等への参加状況はどうなっているか。

学 院：全国歯科衛生士協議会の研修は参加必須としている。学会への参加は、積極的に参加するよう促しており希望参加させている。

学 院：摂食・咀嚼・嚥下実習について、感想、意見をいただきたい。

委 員：高齢者施設での実習は、高齢者の口腔トラブルの気づきであったり、意思疎通ができない高齢者へのアプローチの仕方だったり高齢者施設ならではの学びの実習となってほしい。